

島根原子力発電所の運転状況（平成20年7月）

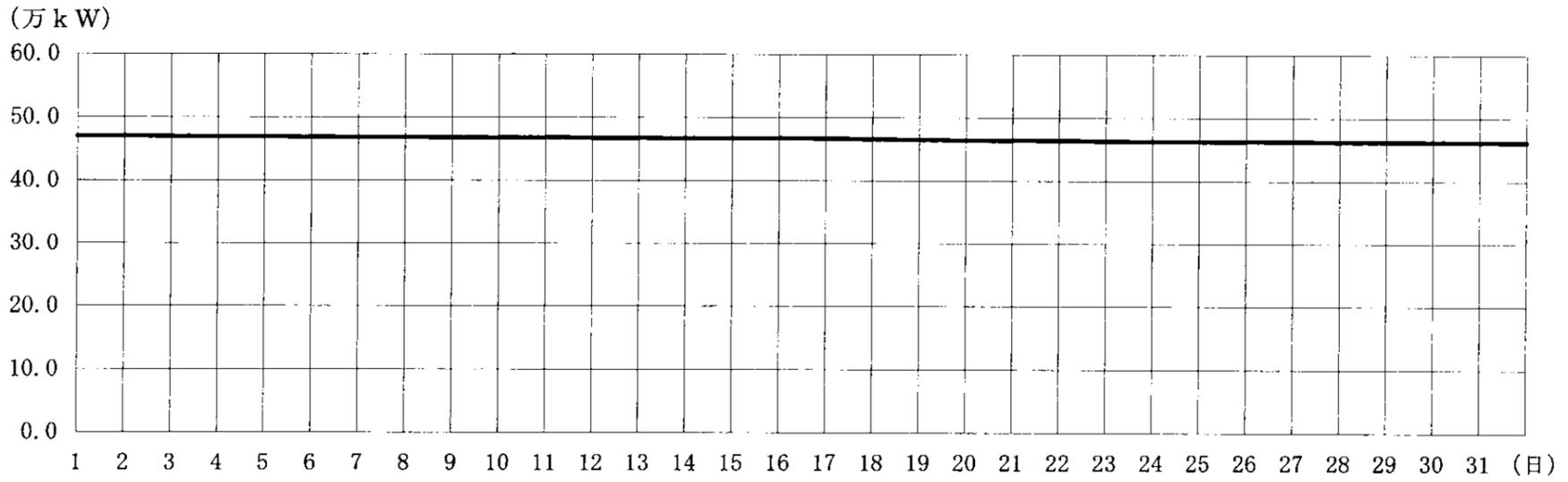
I. 1号機

1. 運転状況

発電時間 744 h 発電電力量 34,631.8万kWh 設備利用率 101.2%

2. 主要項目

なし



3. 特記事項

別紙参照

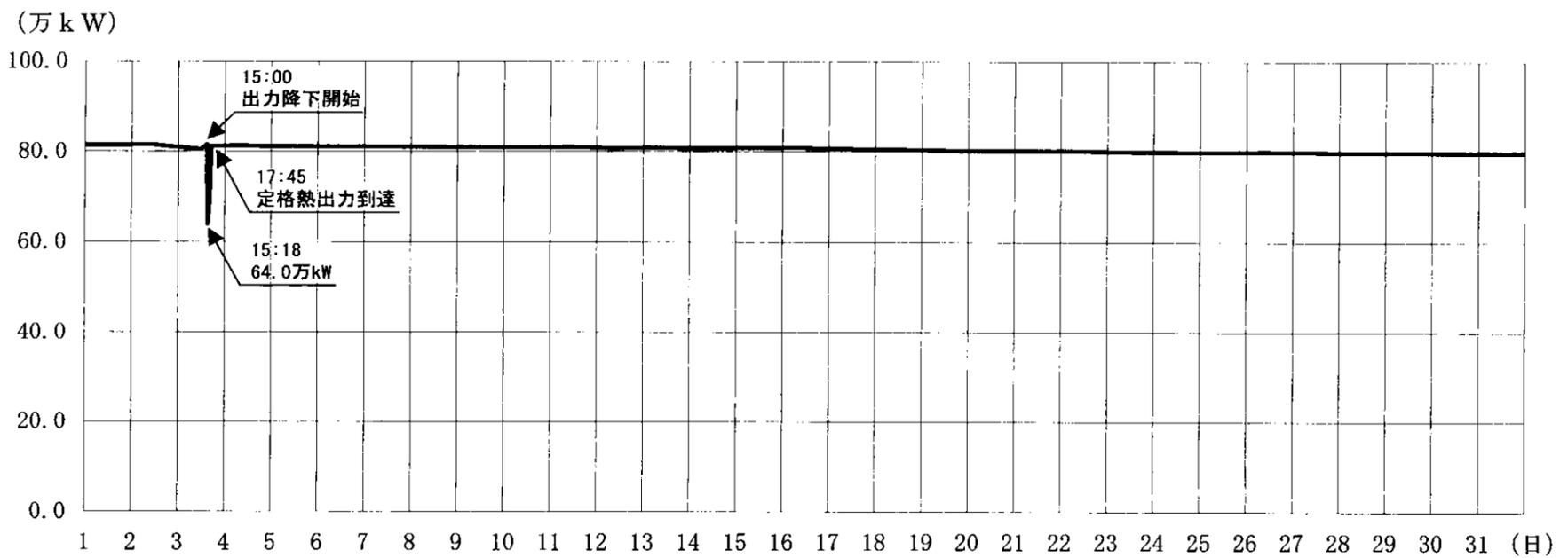
II. 2号機

1. 運転状況

発電時間 744 h 発電電力量 59,920.1万kWh 設備利用率 98.2%

2. 主要項目

①制御棒パターン変更 (7/3 15:00~17:45)



3. 特記事項

なし

III. その他

なし

【特記事項（1号機）】

- (1) 7月11日（金）15時頃、通常運転中に実施する定期試験（1ヶ月に1回）のため高圧注水ポンプ（HPC1）を起動したところ、高圧注水系駆動用タービンが自動停止した。
このため、原子炉施設保安規定で定める運転上の制限を満足していない状態であると判断した。
7月12日（土）、正常に運転できることを確認し、19時10分に運転上の制限を満足していることを確認した。
- (2) 7月12日（土）、通常運転中のところ、19時16分、待機中の原子炉隔離時冷却系（RCIC）において「RCIC蒸気管破断」の信号が発生し、当該システムが起動できない状態になった。
このため、原子炉施設保安規定で規定する運転上の制限を満足していない状態であると判断した。
現場確認の結果、蒸気管の破断はなかった。
原因調査の結果、誤信号によるものと判断したことから、当該信号発生装置を予備品に取替え、7月13日（日）3時59分に運転上の制限を満足している状態に復帰した。
- (3) 7月22日（火）10時20分頃、復水貯蔵タンク横の地下配管ダクト内において、高圧注水ポンプ試験用の戻り配管からの水の滴下および床面の水溜り（約2.4リットル）を発見し、8月2日（土）までに当該配管の補修を行った。
当該部分の点検を行ったところ、配管とサポートの溶接部に3箇所（長さ：5～6センチ）の亀裂を確認した。また、漏れ水の放射能分析を行った結果は測定器の検出限界値以下だった。
原因は高圧注水ポンプの定期試験等によって当該配管に振動が発生し、配管とサポートの溶接部に力が集中して、亀裂が発生・進展したものと推定した。
当該配管は金属性の接着剤による補修を行うとともに、配管の振動を抑え亀裂の進展を抑制する対策として、適切な位置にサポートを追設した。
なお、次回定期検査で配管を取替える予定。
- (4) 8月3日（日）14時頃、試験用の戻り配管補修後の最終確認を兼ねて通常運転中に実施する定期試験（1ヶ月に1回）を行っていたところ、高圧注水ポンプ起動直後に、高圧注水系駆動タービンが自動停止した。
このため、原子炉施設保安規定で定める運転上の制限を満足していない状態であると判断した。
8月5日（火）、原子炉施設の故障による運転上の制限からの逸脱に該当し、原因調査に時間を要することから国への報告対象事象であると判断し、国、島根県および松江市へ報告した。
今後、原因調査および対策の検討を行う。